

## 研究ノート

# キャリア教育科目の新設と全学共通・必修 「キャリア開発Ⅰ」の学生の反応と効果

槇 村 久 子

## 要 旨

京都女子大学にキャリア教育科目「キャリア開発Ⅰ～Ⅳ」が新設され、2008年度から開講した。「キャリア開発Ⅰ」は全学必修とし1年次前期に配置。これは平成18年度・19年度文部科学省現代的教育ニーズ支援取組プログラム「女子学生のキャリア教育の体系化と普及～教員、学生、企業によるプログラムの共同開発」が採択されたことによるその成果の一つで、全学共通科目として創られた。「キャリア開発Ⅰ」は授業目標を「夢や目標を育む～将来を考えながら生き方を学ぶ」であり、グループワークの方法をとる。毎回の学生のコメントから授業目標は授業の方法によってさらに達成の効果が高まったことがわかる。

キーワード：キャリア教育、キャリア開発、女子学生、女子大学、キャリア形成支援

## はじめに

京都女子大学にキャリア教育科目「キャリア開発Ⅰ～Ⅳ」が新設され、2008年度から開講した。「キャリア開発Ⅰ」は全学必修とし1年次前期に配置した。これは平成18年度・19年度文部科学省現代的教育ニーズ支援取組プログラム「女子学生のキャリア教育の体系化と普及～教員、学生、企業によるプログラムの共同開発」が採択されたことによるその成果の一つで、全学共通科目として創られた。

「キャリア開発Ⅰ」は授業目標を「夢や目標を育

む～将来を考えながら生き方を学ぶ」であり、2008年4月から7月まで15回、全学1年生対象に開講した。学部学科、専攻毎に開講し、人数が多い現代社会学科を2クラス、短期大学部3クラスとしたので、16クラスの開講になった。初めての開講であるので、掲げた授業目標と授業内容、授業方法等がうまく機能し、達成できたかどうかを毎回の学生からのコメントや授業中の反応を基に検証する。

## 1. キャリア教育科目の設置に至るまで

キャリア教育科目を設置するに至ったのは、文部科学省現代的教育ニーズ取組支援プログラム「女子学生のキャリア教育の体系化と普及～教員、学生、企業の共同によるプログラム開発～」が平成18年度・19年度に採択され、全学的に上記の目的を達成

するために様々な取組が始められたためである。

採択された取組の概要は次のとおりである。

「キャリア教育は生涯にわたる連鎖、過去・現在・未来を見据えた自己分析と社会との関連づけが重要であり、中高大、卒業後までの長期を視野に入れ、

アジア女性向けのキャリア教育の体系化と普及を行なう。中学生には職業体験学習を実施、社会的視野を広げ、高校生には大学生をファシリテーターとした自己分析中心のワークショップ型プログラムを実施、相互の自己開発と精神的自立を促す。大学生には勤労の現場をリアルに捉えさせる試みを入れたプログラムを実施、社会で通用する行動力を鍛える。卒業後もキャリア開発に取り組むセミナーを実施。梨花女子大学他、アジアにおける先進的な女性のキャリア開発プログラムと連携し、卒業後2・3年と10年向けのリーダー養成に取り組むものである。」

現代GPの採択プロジェクトは、中高大、卒業生までを一連の長期を視野に入れている。しかし、核となる大学におけるキャリア教育をどのような内容で体系化するか、整理し新たに創る必要に迫られた。そのため、本学でのキャリア教育のカリキュラム化にかかる検討の必要性を平成19年4月に部局長会に提案したところ、具体的に検討するよう指示を受け、現代GPキャリア形成プログラム開発研究会と合同による「カリキュラム等検討会」を平成19年5月に設置した。

## 2. 「カリキュラム等検討会」

カリキュラム等検討会では、キャリア教育を全学的に始めようとするにあたって、まずキャリアとは何か、キャリア教育とは何か、なぜキャリア教育に取り組む必要があるのか、女子大学として女性に関わるテーマの重要性等を世界の潮流や国内情勢、他大学の事例、そして最も重要な本学の建学の精神を統合して、本学の課題とキャリア教育のあり方を提示した。

これにより、現代GP「女子学生のキャリア教育の体系化と普及」の体系化に大きな一歩になった。また全学的取組みとするにあたって、各学部学科と事務局関係課が議論し、学部学科の特性と全学的なキャリア教育がどのような接点を持つのか、共通か、

独自性か、担当する教員は専門領域を持つ専任教員が担当するのか、キャリア教育の非常勤が担当するのか、専門教育とキャリア教育はどこが違うのか、等々濃密な議論がされ、方向と課題が共有された。

そこで、ここまでのキャリア教育の取組みの現状と課題は、各学部学科、進路・就職センター、学生生活センター、ラーニングセンターで様々な取組みがされ、特別講義で現代社会学部3回生や大学コンソーシアム京都でキャリア教育科目が提供されているが、臨時的で、体系化されておらず、次のようなキャリア教育のあり方とすることを平成19年6月20日づけで学長あてに報告した。

## 3. 教務委員会と「キャリア教育準備委員会」での検討

新たに「キャリア教育科目」をカリキュラムに置くために、教務委員会に諮り、また「キャリア教育準備委員会」を設置して、平成20年度のカリキュラムに新設するための具体的な検討をして、後で述べるような平成20年度の開講につながった。内容について、当初は「キャリア開発Ⅰ～Ⅴ」が置かれ、「キャリア開発Ⅳ」として「自ら考え学ぶ力を育む」

を目的にプロジェクト型演習が置かれていたが結果的に無くなってしまった。

キャリア教育のための特別講義（B特講Ⅲ・Ⅰ）  
平成18年度後期開講 現代社会学部3回生対象、  
平成19年度前期開講 現代社会学部3回生対象、  
平成19年度前期集中講義 全学部生・他大学女子学生対象（大学コンソーシアム京都で開講）

## 4. 本学のキャリア教育における学生教育の目標や養成する人物像について

### 3つの教育理念と5つの目標

キャリア教育は、本学の建学の精神の流れの中に位置づけられ、本学のキャリア教育の理念を「心の教育」「自立して社会を生きる」「社会のリーダーたる女性」の3つとする。

京都女子大学が考えるキャリア教育は、学生一人ひとりの精神的発達、個人の自立を促す視点からの教育である。具体的には自己の将来設計能力と意思決定能力、自分で責任を取る力、社会的にリーダーシップを発揮する能力、そして時代や社会情勢の変化と人生の諸段階の変化に対応する力を開発することを目標とする。そのため、本学の女子学生のキャリア目標は、上記の5つの力をつけることとしてい

る。それを進めていくために生涯学習していく力をつけるとしている。

キャリア教育科目は専門教育科目を基盤にして、新たに「インターンシップ」を含む、「キャリア教育科目」を設置して全学共通科目とし、各学部学科で「キャリア教育科目群」を設ける。

区分として「総合教育科目」の次に新たに「キャリア教育科目」をおく。「キャリア開発Ⅰ」は全学必修科目とし、その他は選択科目とする。「キャリア開発Ⅰ」は全学共通とするため、京都女子大学独自のテキストを作成すると決められ、2008年度から「キャリア教育科目」2単位が大学共通、卒業に必要な単位になった。

## 5. 「キャリア開発Ⅰ～Ⅳ」の位置づけ

上記の教育を進めるために、各年次の目標を次のようにした。

1年次の目標は、これからのキャリアビジョンを模索、イメージする、女性のライフコースや女性のライフサイクルについて学び、社会のことを学ぶ

2年次の目標は、自分のキャリアビジョンを具体的に考える。自立のための視点を学び、実践する。

3年次の目標は、自己を磨くための能力を身につける。

「キャリア開発Ⅰ」から「キャリア開発Ⅳ」の科目の目標と内容は次のとおりである。

「キャリア開発Ⅰ」夢や目標を育む—将来を考えながら生き方を模索する（1年次前期）

「キャリア開発Ⅱ」職業観を育む—キャリアビジョンの形成（2年次前期）

「キャリア開発Ⅲ」自己表現力を育む—論理的思考能力とコミュニケーション能力の強化（3年次前期）

「キャリア開発Ⅳ」事前・事後指導を含むインターンシップ（3年次通年）

### 「キャリア開発Ⅰ」

キャリア教育全体の基礎とする。大学で学ぶことの意味や目標を明確にし、自分の選んだ学部学科との関連性や自己を理解する。自分の関心に従い、新たに吸収した知識を整合させ、自分の関心と勉学が自分の将来と人生にどのように関わるかを考え、大学生として必要な資質を養う。人間が生きるということ、人生設計の重要性を知り、女性の生き方や社会変化を知り、自己の将来や人生を大まかに描き、キャリア教育を学ぶということはどういうことなのかについて理解を深める。

### 「キャリア開発Ⅱ」

職業生活の中で自分が何を実現しようとするのか、職業に対してどういう意味づけをするのか、働くこ

とを通じた自己実現を考え、将来の姿を含めた自己理解をする。卒業生や様々な場で働いている社会人（ゲストスピーカー）に触れ、職業選択の可能性を知る。女性のロールモデルを知り、自己の可能性を広げる。また社会の課題などから、自分はどの道を進むのかを選択し、そのために専門的能力を得るなど何をすべきかを決め、ビジョンを持つ。

### 「キャリア開発Ⅲ」

実体験と教育研究の融合による学習意欲の喚起、高い職業意識の育成、自主性・独創性のある人材育成を目的とした、ゼミ活動と職業実践をする。それぞれの分野を活かしながらディスカッション等をす

ることにより、考え方に幅ができ、より充実した学生生活や学習ができるようにする。また自らのキャリア形成に関する気づきを得る。

### 「キャリア開発Ⅳ」

考えたことを確実に効果的に伝えるための能力、論理的思考能力とコミュニケーション能力を強化する。また入学時から3年生までの学生生活や蓄積された能力、取り組んできた学業とめざす職業との関係、活かせる強みが明確になっているかを自己評価し、自己実現の第一ステップとしての就職活動に生かす。

## 6. 「キャリア開発Ⅰ」の実践 授業計画や方法等について

### 「キャリア開発Ⅰ」のシラバス

履修年次 1 回生前期 全学共通・必修

授業目標 夢や目標を育む～将来を考えながら生き方を模索する

#### 授業内容

キャリア教育全体の基礎とする。大学で学ぶことの意味や目標を明確にし、自分の選んだ学部学科との関連性や自己を理解する。自分の関心に従い、新たに吸収した知識を整合させ、自分の関心と勉学が自分の将来と人生にどのように関わるかを考え、大学生として必要な資質を養う。人間が生きるということ、人生設計の重要性を知り、女性の生き方や社会変化を知り、自己の将来や人生を大まかに描き、キャリア教育を学ぶとはどういうことなのかについて理解を深める。

#### 授業計画 1～15回

- 第1回 現時点の自分について考える
- 第2回 これからの自分について考える①
- 第3回 これからの自分について考える②
- 第4回 自己分析① 自分史作成ワーク

第5回 自己分析② 自分の価値観を考える

第6回 自己分析③ 自分の能力を考える

第7回 これまでの考えを整理し、まとめる

第8回 女性のライフサイクルの変化

第9回 女性の多様なライフコース

第10回 働くということ(女性の就労について考える)

第11回 これからの夢と目標を考える

第12回 発表とまとめ

第13回 各学科

第14回 各学科

第15回 各学科

#### 担当者

「キャリア開発Ⅰ」の目的のため、大学・短大の全学部の1年次前期に必修科目とした。しかし、大学在学中や将来についての生き方を考えるには、自分の選んだ学部・学科が深く関係する。そのために学科毎にクラスを開講した。教育学科は3専攻、現代社会学科は人数が多いため2クラス開講にした。また短期大学部は3専攻で3クラス開講した。そのため全部で16クラスの開講になった。

初年度は、1～12回を非常勤講師が担当し、13～15回の3回分を学科の専任教員が担当した。各学科3回分の内容や方法については担当者に任されている。学科により3回分を一人の教員が担当するケースと3人で担当するケースがある。

#### 講義の方法と共通テキスト『ふいめりあのと』の作成

全学共通、必修科目であること、また「キャリア開発Ⅰ～Ⅳ」は初めての取り組みであり、また複数の教員が担当するため、共通のキャリア教育のテキスト『ふいめりあのと』を作成し、使用した。短期大学部は2年間のため、別途短期大学部生のための『ふいめりあのと』を作成した。また「キャリア教育科目」の年次配置は別途にしている。

担当教員は、ファシリテーターとしてできるだけ学生の考えを引き出すよう促し、自分のライフキャリアとも関連して話す。テキストを基本にまず教員が毎回当日の講義の趣旨と内容、ワークの方法を話し、そして時間配分を示した。学生個人がワークをしながら、グループワークや、個人やグループで発表をする。講義の終わりには、毎回当日の講義の内容についてコメントと感想を書く。

#### 評価方法

成績評価は点数ではなく、「合」「否」にする。基準の考え方として、毎回の出席が5点で15回、最終課題レポートを25点にする。課題レポートは今回各学科専任教員が読み採点する。

## 7. 「キャリア開発Ⅰ」の講義の内容と方法について学生の反応

毎回の講義に関して、学生がどのように理解し、どこに反応したか、どのような発見をしたか、毎回の講義後の学生のコメントと感想から見てみよう。次は著者が担当した史学科の事例から考えてみる。

次にあげるのは、テキスト『ふいめりあのと』の各講義のテーマとワークの内容と、それに対する学生のコメントの一部である。

### (1) 第1回「現時点の自分について考える」(4月)

- ・なぜ京都女子大学を選んだのですか？ 何のために？
- ・なぜ今の学部・学科を選んだのですか？ 何のために？

なり、どのように今まで来たのか、教員自身のライフヒストリーとキャリア形成について話した。

#### 講義の内容と方法

第1回は、まず京都女子大学の教育理念やキャリア教育の目的、大学生活全般にわたるキャリア教育の範囲と年次目標を説明。次に①なぜ京都女子大学を選んだのか？ また②なぜ今の学部・学科を選んだのか？ を各自がノートに書き込み、グループで自分の書いた内容を紹介し合う。第三に教員自身がなぜ自分がこの学問や研究をしようとするように

#### ①「なぜ京都女子大学を選んだのか、なぜこの学科を選んだのか」について

「やはり史学をやるなら京都で。小学生の頃から日本史が好きで、昔生きていた人たちが何をどのように考え行動していたのかなど勉強してみたかったから」

「「京都」という地で大好きな歴史を学ぶことができる」

「歴史的建造物が多い京都で学べるから」



「新撰組が好きで、京都にあこがれていたから」  
「一年次に東洋史、西洋史、日本史を学べる教育システムはまさに理想的」

「京都は都会でありながら、緑も多く、四季の移り変わりが美しいこと」

「史跡や遺跡の多く残っているこの京都で、歴史を自分の目で見て、感じて、体験していきたいと思ったので」

「歴史をがんばって教師になろうと思いました」  
「求人はあまりないけど、学芸員の資格を取りたくて」

## ②「私のライフヒストリー」についての感想

「先生の時代は女子大生亡国論等、女の子が大学で学ぶことが肩身が狭かったことを知れたとともに、今、自分がいかに恵まれた環境で好きなことを学んでいるかを知ることができた」

「女子大生亡国論ということをはじめて知って、就職はやっぱり難しいと思いました。でもがんばろうと思います」

「先生はこれまでとても苦勞なさってきたんだな、ということです。私は大学が始まって、2週間で、疲れたなあと思っていたけれど、社会人は肉体的にだけではなく、精神的にも疲労がたまると言うことを覚悟しておきたいと思いました」

「女性が働くのは、今よりだいぶ良くなってきましたが、でもまだ少し差別が残っている部分もあるかと思うので、自分に教養を身につけて、社会に出ても、男性に負けぬぐらいの働きをしたいと感じる講義でした。これから4年間しっかりと考えて生きたいと思います」

「私は派遣でも就職できればいいと考えていたのですが、今日の話を聞いて、妥協せずに努力して正社員になりたいと思うようになりました。今というときを大切に、自分の夢実現のための大学生活を充実させたいです」

「女子大生亡国論とはひどいなあとと思います。現

在の男女共同参画社会の時代に、学生が就職できるので良かったと思いました。昔は女性の社会進出がそんなに大変だったことに驚きました。何より驚いたのは「面接にミニスカート」です！どんな職に就きたいかまだ決まっていないので、この授業で自分を見つけて生きたいです」

「女子大生亡国論に驚かされた。自分は最初、女性が社会に出て働く子どもを生まなくなるからと思っていたけど、まさか働かないから税金の無駄遣いだとは…。かつての社会大勢からすると、働かせてもらえないからだというのに。社会が女性に社会へ出てほしくないようにしか思えない」

「女性の雇用についても時代によって全然違うことを知りました」

## ③「キャリア開発」という講義についての感想

自分の将来が定まっている学生とまだわからない学生

「土曜日ということで「迷惑な」という思いがあった。しかし、実際は講義を受けてみると先生は楽しく話して下さいましたし、講義内容も将来自分にとってとても重要なことであると分かりました」

「高校でも“キャリアガイダンス”という授業を受けました。今の具体的な意欲の矛先がどこに向かっているのか分からない現状を改善していけたらと思います。わからない、で逃げ道を作らないように鍛えて生きたいです」

「あと3年後には就職活動をし、社会に出て行く上で大切なことだと思うので、半年間がんばりたいとおもいます」

「3回生からの就活に向けて、ていねいに勉強や生活をしたかったです」

「今の自分の考えを見直す良い機会でもありましたし、周りの意見に耳を傾けることで、新たな発見もありました。女性が今までいかに社会から疎外されてきたかということも、改めて認識しました」

「まだ全然就職といわれてもピンと来ず、ただば

んやりと、適当に、いつか就職して、結婚して…みたいな人生を送るのだと思っています。でも、今日の授業で、そんな人生を送るとしても、“今”がとても大切でやるべきことはやっていかなければならないのだなあと感じました」

「自分がこの大学にきた理由を、もう一度きちんと整理しなおすことができました」

「就職する上で必要な科目であると今日出席して感じたので、できれば3年までとって行こうと思いました」

「キャリアという言葉の意味が一生涯に関わるものだと認識を新たにして、次回からの講義に望める」

「私はまだ将来こんな仕事をしたいということがまだはっきり見えていないので、後で後悔しないでいいように今からじっくり考えてみようと思った」

「就職についても先生のようにいろいろな職業に就く機会ができるかもしれないので、一つのことにとらわれずに、仕事などいろいろなことを楽しみたいと思いました」

「4年後振り返ったときに、どれくらい変わったのか、成長したのかと思うと楽しみだなと感じた」

「一人の女性として社会で独り立ちするためには、4年間単位をとるだけでなく、バイト、サークル、ボランティアなど勉強以外のことにもすすんで取り組まなければならないと思いました」

「この科目は日常生活の中で役に立っていけそうだと思います」

「どんなことをするのか初めはわからなかったけれど、これから60年以上の人生を歩んでいく中で、とても価値のある学習だと思いました」

#### ④表現力について

「自分の思っている事や考えを的確に文章に表すことが苦手で、論文など困ると思っています」

「自分の理由を発表することで、自分のスタート位置が分かったと思いました」

「就職活動が始まるまでには自分の考えなどを相手に伝えられるようになったりしたい」

大学や学部学科の選択については、史学科という専攻分野の特徴から京都という土地の価値や東洋史、西洋史、日本史が同時に学べる教育システムをあげた学生が多く、選択理由が明確な点が見られる。

「キャリア開発」という講義に対して、初めはどのようなことをするのかわからなかったが将来自分にとって大事なこと、就職する上でも大事なこと、今やるべきことをやる、講義だけではなく大学生活全体に進んで活動するなど、また一人の女性として独り立ちできるように、長い人生を歩んでいけるようになるなど、キャリア開発Ⅰの大きな狙いを当初に理解されたと考えられる。

私のライフヒストリーは2008年に大学へ入学した学生と世代間に大きな開きがあり、当時の女子大生に対する考え方、就職活動、職場での男女差など社会的状況の時代の変化に学生たちは驚いた。教員が自らのライフヒストリーを話すことは、現在と未来だけでなく、過去とのつながりや変化に学生が気づくことになる。

また、ノートへの記入やグループ内での発表は、考えを的確に文章化したり、相手に伝える力が必要であることに気づいた。

## (2) 第4回「自己分析」(5月)

- ・ 自分史作成ワーク
- ・ 自分史を作り、その時の出来事を振り返る
- ・ 自分のこれまでのキャリアラインを描く
- ・ それぞれのエピソードを文字化する

- ・ プラス項目 (成功談) 時期とエピソード
- ・ なぜプラスになったのですか? 共通する原因を記入してみましょう
- ・ マイナス項目 (失敗談) 時期とエピソード

- ・なぜマイナスになったのだろう？ 共通する原因を記入してみましょう
- ・その経験によって自分は何を学んだのか、考え記入してみましょう。

#### ①自分史作成の感想について

「こういう授業を通して出ないと自分自身について考えたり、過去を振り返ったりすることがあまりないので、良い経験になった。グラフを書いている楽しかった。今があるのは、昔の経験があったからこそなんだと思えることができた」

「自分の人生を振り返ってみて、なんとなく生きてきたけど、何だかんだでいろいろあったなあと、改めて思った。楽しかったことよりも、苦しかったことや辛かったことのほうが先に思い出されて、これで役に立ったことや勉強になったことが認識できた」

「先生が「人は自分の良いところしか見ていない」とか、「マイナスのときも大事だ」と聞いて、そのとおりだと思いました」

「思い出すのは悪いことばかりが多くて、あまり人生楽しんでなかったと思いました。良いことは中学に集中しています。資格を取ったり、図書委員に確実にするために委員長になったりして充実した日々を送りました。美術部でも好きな絵が描けたし」

「19年の歴史を20歳になる前に振り返れてよかった。…今回ふりかえってみて改めて大学4年間をただただ過ごすのではなく、目的を持って一途に努力し続けなければならないと思いました」

「自分にとって何がプラスで何がマイナスであったかということを考えさせられたのではないかと思います。…自分の今までの過去のことが現在の自分を構成しているんだなと思いました。…過去の良いこと悪かったことということを、まずそれが良かったのか悪かったのかということを考えなければなりません。自分というものの事が余り理解できていないと実感しました」

#### ②プラスとマイナスは両面であることの発見

「自己分析するのを避けていたこともあったので、改めて自分を見てみると、いろいろ思い出し、楽しかったり、沈んだりしていました。たくさんの経験をしてきましたが、それぞれが自分の肥やしになっていることが分かります」

「先生が「人は自分の良いところしか見ていない」とか、「マイナスのときも大事だ」と聞いて、そのとおりだと思いました」

「改めて自分の過去を振り返ると、良いことも悪いこともあったけど、結局は自分次第であった。悪いことのほうがむしろ印象的で自分にとってもプラスになっていることのほうが多かった。いじめられたこともあったけど、強くなれたし」

「自分の意識のしようによって出来事はプラスにでもマイナスにでもなるんだということをしみじみ感じた」

#### ③グラフ（キャリアライン）を書くのはおもしろかった

「このグラフは、過去の思い出をどんどんよみかえらせるものでした。意外な共通点があったり、反省すべきこともあったり。正直こんなを書いてどうするんだと思っていましたが、役に立つ、というか、おもしろいものだなと思いました」

「自分をこうやって紙に書いて振り返るのもいいなと思いました」

「グラフにしてみると意外と変動が激しいものだなと感じた」

しかし、中には

「自分史を作って、疲れました。過去を振り返っても、ためになったこともなかったです。悲しいことばかり思い出した気がします。過去ではなく、今がとても楽しくて良かったです」

#### ④みんな話を聞くことでの発見

「友達の過去を知ったりはこういう機会がないと



話したりしないので、たくさん話すことができてよかった」

「みんなすごい経験をしているんだなあと思った。つらさは人それぞれで理解はできないけれど、共感はできました」

キャリアラインを描きながら、自分史を作り、その時の出来事を振り返ることによって、人生に色々なことがあったことが認識された。日常は自分を振り返る機会がないため、特に20歳になる前に振り返

り、現在と未来への生活が意識化された。紙にキャリアラインを実際にかくのはおもしろかった、という学生が多かったが、一方、自分史を作って疲れたと悲しい思い出という学生もいた。多くの学生は、マイナスの経験も見方を変えるとプラスになり、自分次第でマイナスはプラスの経験になることを発見した。

グループワークの体験は、辛い経験は自分だけではないという安心感や、メンバーの話を聞くことで共感ができたという効果があった。

### (3) 第8回「女性のライフサイクルの変化」(5月)

- ・大正期と現在の既婚女性のライフサイクルのモデル
- ・女性の年齢階級別労働力の国際比較(スウェーデン、アメリカ、日本、韓国のグラフ)
- ・この80年あまりの間に、女性のライフサイクルはどのように変化しましたか?
- ・女性のライフサイクルの変化に応じて、どのような考え方や行動が必要となると思いますか?

#### ① 80年でこんなに変化してびっくり!

「時代の流れに従って、女性のライフサイクルも変わっていくんですね。ビックリしました。…今は結婚しない人も増えてきているし、女性一人で生きていくための社会づくりとか支援も必要になるはずなので、それに関心を持っていければいいなと思っています。そのためにも、自分自身もっと自立していけるようにがんばります」

「今日は女性のライフサイクルを学んで、この80年間で女性は大きく変わったなと思いました。私は今の女性を生きる人間として、もっとリプロダクティブ・ヘルス・ライツを勉強すべきかなと思いました」

「これらを見ると、昔は子どもをたくさん産むなど短い寿命の中でも、すごく密度の濃い人生を感じ

がしました。どういう社会の流れがこういう風に導いていったのか考えたい」

「80年の間であんなにも女性のライフサイクルが変わっているなんて、びっくりしました。…またこれから80年後のライフスタイルは今私たちが考えていなかったようなものになっていくかもしれないと感じました」

「平成と大正というたった80年ほどの間で、こんなに女性のライフスタイルが変化していて、びっくりした。またアメリカやスウェーデンと日本、韓国の労働力率の違いにも驚いた。国際的に日本の女性の立場はまだまだ低いかなと思った」

#### ② 社会のサポート、政策が必要だ

「女性の社会進出が増加する中で、子どもとの時間が持てない女性が増えていることは事実です。しかし、私は子どもとの時間はしっかりもちたいと考えているので、今の日本の社会の育児休暇の少なさに不満を覚えてしまいます。今回の授業で、女性が社会で働いていくためには、社会のサポートが絶対必要なのだということを改めて感じました」

「労働時間の国際比較で、日本の女性が30~34歳になるといったん仕事を辞めるということを知って、もっと辞めなくてもいいような周囲の対応と、女性

の考えが必要だと思いました」

「65歳以上担っても、働くことのできる人は働くことによって、老後の扶養期間を少しでも短くすると同時に、自分の時間を有効に、有意義に使っていくためにがんばるべきだと思いました」

「平均寿命が25年延びた結果、特に人生の後半ともいえる時期において、寡婦期間や老親扶養期間などがきれいに2倍になってしまっているのには、思わず苦笑してしまいました」

### ③母や祖母の一生を知る機会がなかった

「母や祖母の今までの人生について、ほとんど語り合ったことがなかったので、これを機会に色々な話を聞いてみたいと思います」

「祖母、母、私の年表を書いてみて、自分が祖母のことについてほとんど何も知らなかったんだということが分かりました。もっと家族のことを知るということも大切だと思いました。夏休みに帰ったら、もっと祖母について色々教えてもらおうと思いました」

「キャリア開発の時間はいつも楽しく授業を受けることができてうれしいです。正直、祖母や母の一生を詳しく知る機会はそれほどないと思うのでいい機会になりました」

「祖母や母親の年齢も、どのように過ごしてきたかも良く分からなかったので書きようがなかったけど、いろいろ苦勞して今に至っているのだから、機会があれば聞いてみようと思う。また、その中で自分の将来について考えられたらいいなと思った」

「おばあちゃんとお母さんの人生と自分を比較するのに、おばあちゃんどころかお母さんの人生さえよく知らないことに気づいた。なんか、知りたいような、知りたくないようなおばあちゃんにも高校生や学生時代はあったのだろうけれど、いや、あるのは当たり前だけど、想像しにくい。ある意味、おばあちゃんとかにはミステリアスでいてほしい」

(宿題)

祖母と母と自分のライフサイクルの比較図を作る  
(時間が足りなかった、または母や祖母のことを知らないでかけない場合)

## (4) 第10回「働くということ」(6月)

- ・働くことに対する自分なりのイメージを理解してみましょう
- ・マズローの欲求の5段階説から作ったチェックシートでチェックしてみましょう

### ①目指すところで欲求の段階が違うことに気付く

「私は生理的欲求、安全の欲求、所属・愛情の欲求、承認・尊敬の欲求はとてもよく当てはまっていますが、自分は意外と前向きなんだなあって思ったけど、自己実現の欲求はチェックが一つしか当てはまっていなかったのが、驚きました」

「働くことについて考えてみて、私はどうも仕事を楽しいもの(趣味)などと一緒にする気がないようだ気付いた。けれど、成人すれば仕事をする時

間は必然的に延びることだし、教科書にあったように自己実現の欲求が低いのは自分を高めていくことができないので良くないと思った。人として成長していけるように、仕事に対してもっと違うイメージを持ったほうが良いと思った」

「私は研究員になりたいので、周囲の人から評価されたり認められたりすることは必要なわけで、承認・尊敬の欲求が最も重要だと思いました。結婚していれば夫の収入もあるだろうから安全だろうし、基本的には健康な体で、自分のしたいことができればいいので、収入には特にこだわらないということに気付きました。私は人と協調するより自分一人の研究するほうが好きだから、人との関係はきちんと築いていかなければならないと思いました。専門的

な職業に就くのは大変なことなので、今から勉強してがんばりたい」

「自分が就きたい職業によって欲求の向けられる方向が違うことが分かった。研究員になりたい人や私みたいに塾講師を目指す人にとっては、評価されなければ認められなければ生きていけない世界なので、承認・尊敬の欲求が高く、一方で結婚を目標にしている人は自己実現や承認・尊敬の欲求が少ない分、所属・愛情の欲求が高い（職場で結婚相手がみつかるかもしれないから）。それぞれの目的によって欲求が違うことが今回分かった」

「今回の授業で私は仕事に対して結構欲求を持っているなと思いました。最初は欲求がありすぎるのはどうかと思いましたが、それだけ仕事に対する意識が強いのだとポジティブに考えることにしました」

## ②生理的、安全の欲求は全員が、少ない承認・尊敬、自己実現の欲求

「私は“基本的な生活ができて、安全の保障があり、周囲の人と協調し仕事ができる環境”を求めていることが分かった」

「やはり皆、生理的、安全の欲求の項目を多く選択している人ばかりだった。私もそうだけど、自己実現などよりは、まず生活の足場を固めておきたいようだ。学科の特殊性か、専門家として評価されたい、そうなりたいという人が多かった。何かの専門家になれば、生活が安定するという保障もないけれど、皆、歴史で句っていただけいいな、と考えていることが分かった」

「働くことに対する自分のイメージを今日考えてみて、それを整理し、一体どんな条件で働きたいのかを考えました。私は所属・愛情の欲求の欄が全部埋まりました。これはきっと人と接することが小さいときから好きであること、仲間意識が強いこと、

協調性を大切にしていることに基盤があると思います。ですから、仕事で活躍もしたいけれど、地域の輪の中で廃品回収をしてみたり、ごみ拾いをしてみたりなどそういうこともしていきたいので、あらためて仕事を何にするべきか考えさせられました」

## ③グループの人の話に多様さを知る

「グループの人達の話の聞くと、みな様々で興味深かった。みな似たようなものではと思っていたので意外でした」

「いつもとは違う子達と話せて、いろいろな意見を聞くことができて良かった」

「話し合いが盛り上がって楽しかったです。他の人の話を聞くことは、やっぱりいいことだと思いました」

「みんなのいろいろな意見が聞けた。健康や収入が大事なのは一致したけれど、その他の安全、所属・愛情、承認・尊敬、自己実現の欲求はばらばらでおもしろかった。一人ひとり就きたい職業は違うけれど、きちんと考えていることが分かった」

マズローの欲求の5段階説を仕事に関連した項目で作ったチェックシートを基に各自がチェックし、グループで話し合いをした。まだ仕事をしていない学生がチェックするのに学生向きの項目ではないかもしれないという不安があったが、発表やコメント用紙からみると、職業について自分が目指すところの気付きが多く見られた。積極的な一方、人に評価されるのには疲れる、人に認められなくてもいい、人に指示されて仕事をやるほうがいい、昇進しなくてもいい、まだ仕事をしていないので分からない、グループではチェックシートはやりたくない等の意見も表明された。

## (5) 第11回「これからの夢と目標を考える」(6月)

- ・＜5年後＞の自分をどうしたい？ イメージを文章で記述してください
- ・＜5年後＞の自分の24時間の生活を表現してください。(24時間時計の図に記入する)
- ・＜10年後＞の自分をどうしたい？ イメージを文章で記述してください
- ・＜10年後＞の自分の24時間の生活を表現してください。(24時間時計の図に記入する)

## ①想像がつかない！、でも発見

「23歳と29歳というのは、もうすぐにやってくるのにとってもイメージしにくかった。まだ曖昧に声を出す仕事か、歴史関係の仕事に就けたら一番いいかなぐらいのことしか考えていないので、早くしっかりとした将来プランを立てないといけないと思った。けれど、前からやっている授業でも気付いたように、私は仕事をお金を得るためにするものという捉え方が強いので、私語の内容についてあまり頓着がなくて、そのせいでよくいにしっかりとしたプランを立てにくいのだと思った」

「5年後、10年後のことなんて想像がつかなくて大変だったが、いい発見をした。まず1つ目は寝ている時間が長いこと。睡眠をとることは大事だが、1日の3分の1寝ているのはもったいないと思った。朝ももう少し早く起きれば余裕ができる。2つ目は自由な時間(趣味)がなかなか取れないこと。仕事ばかりの人生もつまらないので趣味も楽しみたい。3つ目は1日は思っていたより短いこと。最近、1週間過ぎるのが早くてビックリしているので、ムダのないように時間を使いたい。(私はボーっとしている時間が多い気がする)

「将来の自分の生活リズムについて考えてみると、5年後のイメージも10年後のイメージも、大して変わっていないことに気がきました。私はたとえ結婚

できたとしても仕事は辞めたくないですし、子どもが産まれたとしても、休職することはあっても、退職することはないと思います。自分の性格を考えると、5年後の入社したばかりの頃は、1時間前などに入社して、遅めに退社すると思いますが、10年後の慣れてきた頃には15分くらい前に行って、時間かききに変えると思うんです。それくらいの差はあっても、結局は大して変わらないんだろかなあと思いました」

## ②趣味の時間を大切にしたい

「私は今18歳なので、5年後は23歳になっています。23歳の私はとりあえず職についていけばいいかなあとと思います(できれば高校の先生がいいです)。朝は6時におきて8時に出勤、9時から18時までの仕事で、20時までにその日のすべてのことを終わらせて、以降2時頃までは自由時間という風だったらいいです。

10年後結婚していると仮定して、朝は7時に起床、8時までに朝食をとって12時までに掃除と買い物を済ませます。お昼は習い事をしたいです。18時から19時の間に夕食を食べて、以降は2時ごろまで自由時間にしたいです。(仕事はやりません)」

「もし公務員になったらの話ですが、趣味の方面を充実させたいと思います。習い事などいいなあとと思います。多分実家住まいだと思います。10年後、もし結婚していたらの話ですが、子どもがいれば専業主婦がいいかなあとと思います。そしてやはり趣味を充実させたいです。多分専業主婦は結構暇だと思うので」

「私自身もそうですが、グループでも、みんな「趣味の時間を大切にしたい」という意見を持っていました」



③ 10年後はさまざまな道、仕事中心か家庭中心か  
 「5年後、10年後の時計を書いてみて、5年後はみんな2パターン（大学院または仕事）だけれども、10年後はさまざまな道にあるんだなと思った。10年後どんな人生になっているかわからないけど、最低でも1人で生きていける生活生計を立てて起きたい。後できれば結婚したい。やはり、女性にとって結婚は人生の変わり目なんだと今回の授業をやっていると思った。結婚できるかできないかはともかくとして、人に頼るより自分で立てて生きていける人間になりたい」  
 「うまく就職できて、それでそのままバリバリ仕

事中心で生きていくのか、結婚して子どもを産んで家庭中心に生きていくのか2つに分かれやすいのかなと思った。発表を聞いていると家庭を気付いて生活していくというスタイルの人が結構多かったのが印象的だった。みんな具体的に5年後、10年後を想像していてすごいと思う。私はまだ漠然としていて細かく書けなかったが、だんだん具体的に未来の計画を立てて生きたい」

10年後は結婚して専業主婦になろうとしている人と、結婚や子どもが生まれても仕事を辞めないでと考えている学生では、時間の使い方に差が見られる。

## (6) 第12回 現代GP成果報告会・講演会に参加（7月）

現代GP成果報告会・講演会に参加し、キャリア教育、「キャリア開発Ⅰ」がどのように大学で位置づけられているかを再度全学的な報告会で再確認する。また、内閣府男女共同参画局企画調査官から「ワークライフ・バランス」の講演を聞き、現在の社会潮流と自己の将来像を再度考えてもらった。

この後は学科専任教員が担当する。12回の講義に対してのレポート課題は、「キャリア開発Ⅰ」の中で、①一番関心を持ったこと、②この授業を受けて考えがどう変わったか、③これから学んだことをどう生かしたいかの3点について記述する、である。

## まとめ

講義の内容や方法について学生のコメントの事例から、「キャリア開発Ⅰ」の「夢や目標を育むー将来を考えながら生き方を模索する」という授業目標はほぼ達成されたと考えられる。また、先に挙げた授業内容「キャリア教育全体の基礎とする。大学で学ぶことの意味や目標を明確にし、自分の選んだ学部学科との関連性や自己を理解する。自分の関心に従い、新たに吸収した知識を整合させ、自分の関心と勉強が自分の将来と人生にどのように関わるかを考え、大学生として必要な資質を養う。人間が生きるといこと、人生設計の重要性を知り、女性の生き方や社会変化を知り、自己の将来や人生を大まかに描き、キャリア教育を学ぶとはどういうことなの

かについて理解を深める。」もほぼ達成されたと言える。

特に、グループワークや発表など講義の方法による授業内容の達成の効果は大きいことが判明した。次の最終レポートの記述がそれを代表している。

「講義といえば聞くだけのものと考えていた私にとっては、キャリア開発というこの講義は他のものとは少し異なるもので楽しかった。今までの自分を振り返り、さらに皆の前で発表するということは普段あまりする機会がないことであるので、私にとっては貴重な体験となった。また他人の意見を聞くことにより、自身とは異なる新しい考え方を得ることができた。



この講義では、一人で考え、発表するという形式と、適当に小グループに分かれ、そのグループ内で自分の意見や考えを話し合い、後で代表者が発表するという2つの形式があったが、私は後者のほうが良かったように感じられる。なぜならば、グループ内の皆で話し合うということは他人の意見や考えを得ることができるからだ。自分だけであつたら考えもつかないようなことを発言する学生に、私はこの講義ですでに数回出会っている。このことは新しいものの捉え方、考え方を知るきっかけとなり自分の成長へとつながった。それに、同じ意見を持つ子であつてもそれぞれ微妙なニュアンスが違ってくるという点もあり、良い刺激となった。

また、グループ分けの際は適当であつたが、前回の講義と同じ面子にならないようにという工夫がなされていたので、同じ学科に在籍する者同士であつたにもかかわらず、今まで会話したこともない人と話すこともでき、学科内におけるコミュニケーションの良い機会にもなっていたように感じられる。特に女子はグループで固まりやすく、いったんグループが形成されてしまうと他のグループの子たちとはあまりかわりを持たないという閉鎖的な人間関係になってしまう傾向が良くあるので、なおさらいいように感じられた。まだ1回生ということもあり、

学科全体で講義を受けることのほうが多く、なかなか少人数で話し合うという機会が少ないので、一人ひとりの意見をしっかりと聞くことができるこのような講義形式は新鮮であつた。

また女子大ということもあり、これからの女性の社会でのあり方について考える機会が多かつたように感じる」。

このように、講義形式のさまざまな工夫は、授業効果を高め、また1回生前後に「キャリア開発Ⅰ」を置いた効果が明確に見られる。

しかし、一方で課題もある。グループで意見や話し合い、発表の方法をとるために、自分のことを言いたくない学生やコミュニケーションがうまくいかずグループでワークをしない場合も時に見られる。各学科担当の非常勤講師と専任教員とが連絡を取り合い、授業内容や方法、学生の反応、また前の12回分と後の3回分の接続のコミュニケーションをとりあつたが、学生にとってなぜ途中で教員が変わるのがわかりにくい点も見られた。評価方法は、点数ではなく可否としているが、積極的に取り組んだか、コメントは充分書けているか、出席率はどうかなど、キャリア教育の評価は初めてであり、今後評価のあり方も課題がある。